

生涯學習情報誌

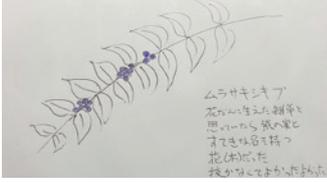
Life Learning

5
2021
May.
NO.369

【私が考える“日本の美意識”】
藤田彩月
 日本の美意識のひとつは「侘・寂」。いろいろなものが溢れているなかで、いま一度「足るを知る」を考えたい。



【アイスブレイク】
 各自「好きな花」を思い出とともに描く。後半のアルミホイルで花をつくるワークにつながる。オンラインでも可能なフィジカルなワークの実践。



日本の美意識でリフレームする
「日本の美意識とクリエイティブ発想を体験するワークショップ」
 登壇者：武蔵野美術大学「日本の発想研究会」チョウ・シウン、藤田彩月、横山陽子、酒井章、山崎和彦（武蔵野美術大学教授）
 主催：生涯学習開発財団／青山学院大学 社会情報学部／青山学院大学 学習コミュニティデザイン研究所 共催：武蔵野美術大学 日本の発想研究会 協力：青山学院大学 社会情報学部ワークショップデザイナー育成プログラム事務局

【外国人から見た日本文化】
チョウ・シウン
 ステレオタイプな日本ではない内面的なものが認識されていない。茶道などの主客一体のおもてなしは日本独特。



【SPIRIT OF JAPAN 私にとってクリエイティブ発想】
横山陽子
 日本の伝統的建築の基本技術である「継手」は、片方を男木、もう片方を女木と呼び、人間関係にも見えるアート。



【「日本の発想」とは何でしょう?】
酒井章
 1970年の万博が日本とは何かを考える機会に。四季のグラデーションと余白を感じる力は日本人独特の美意識。



【連なる】Mさん
 亡くなった母と最後に散歩した庭園の菖蒲をつくった。母に習い40年続けてきた茶道を、娘や次世代につなげたい思いから題名は「連なる」とした。



【造形ワーク→グループ対話】
 冒頭で描いたスケッチをもとに、アルミホイルで「自分だけの花」をつくって題名を付ける。グループに分かれ、どんな気持ちで何をつくったのか対話。



【Reframe Workshop by Japan Beauty】
山崎和彦
 栗きんとんが美味しいだけでなく豊かさを願うものであるように、リフレーミング=別の観点を持つのが日本文化。



【どの花見てもキレイだな】Sさん
 描ける花がチューリップとひまわりしかなかった。チューリップはきれいな形で見られる時期は短く、花壇にずっと並ぶ感じが好きで3つつくった。



【満月の夜に咲く白梅】Sさん
 とりあえず手を動かしていたらだんだん梅の花になってきた。しかも天井の電灯が黒いトレーに丸く写り込み、まるで満月の夜の梅の花に見えてきた。



【しゃんとした日常】Uさん
 朝咲いて夕方しぼむしゃんとした朝顔が好き。暑い日も朝顔の絵柄の浴衣を着ると、しゃんと背筋が伸びる気がする。夏には日常に戻ってほしい。



【クロージング】山崎和彦
フィジカルな要素と「自己との対話」
 日本の美意識は五感で感じるとことが大事。ワークショップも五感を使って「自己との対話」をしていただいた。



【利他のリラ】Tさん
 そこにあるだけで人を勇気づけてくれる花。リラはライラック。八百万の神が花に宿っていて、私たちは知らず知らずメッセージを受け取っているかも。



【花びら綺麗だけど、真ん中の種の存在】Yさん
 子供のときの自分を思い出しながら、ずっと好きだったひまわりをつくった。種の部分が意外に大きくズドンとしたところも含め、自分の根幹を感じる。



祝

2019年3月 お茶の水女子大学博士号(理学)取得

坂本美佳さん(取得時50歳)

【論文テーマ】ヒト薬剤代謝関連遺伝子にみられる一塩基置換がタンパク質の機能と構造に及ぼす影響の生命情報学を用いた研究

ゲノムとタンパク質の解析によって、病気予測が可能な未来を

■ AIで遺伝子中のゲノムを解析する

坂本美佳さんが博士号研究で注目したのは、人の遺伝子のゲノム配列とタンパク質(シトクロムP450)生物が正常に活動するために必要な酵素)との関係。人体の設計図ともいえるゲノム配列の変異が、体の組織や体液を作るタンパク質になったときにどう影響するのかを考察した。設計図にミスコピーが生じた場合、ある組織が無限にできてしまつてがんになったり、逆にできなくなつて病気の原因になつたり、といった影響があると考えられている。坂本さんは、P450遺伝子群の遺伝子変異の全体像を俯瞰して見ることで、酵素の働きの異常や特定の病気になりやすいかどうかなどを、ある程度予測できるのであると考えたのだ。

本研究の特徴は、タンパク質を使った実験による解析ではなく、膨大なタンパク質の三次元構造データをAIによって解析するというアプローチにあった。ゲノムの配列だけを見ている人、病気になった人の配列を見ている研究者はいるが、坂本さんは、「二歩先に行つて、ゲノムがタンパク質になつたところでどう作用するのかを見たかった。AIである程度絞り込めれば、実験や臨床のコストも下がって貢献できるはず」という。

■ 自分はこの分野の入り口に立つただけ

大学では生化学を先行し、関連する仕事に就いていたが、放送大学大学院で学びを広げ、2013年に修士を取得。修士の勉強をするうちにより広い世界が見えてきた。「自分はこの分野の入り口に立つ

ただけだ、もっと奥まで進みたい」と、気がついた

らお茶の水女子大学大学院の博士課程にいた。

家庭があり、遺伝子解析の仕事をしなごらだつた

が、博士論文に取り組んだ。子どもが2人いると実

験は難しい。もともとコンピュータが好きだつたこ

ともあり、コンピュータを使った仕事や研究なら、

家庭と両立できると思つた。コンピュータや通信機

器の性能が飛躍的に進歩したタイミングもあつて、

ゲノム解析に取り組むことができた。

家族は坂本さんのやりたいことを理解してくれた

が、論文の締切りと子供の受験とががぶらないよう

タイミングを図るなど、配慮はした。

■ 博士号取得で周りと自分が変わったこと

論文審査中は、修正しては再提出という期限が繰

り返しあり、そのプレッシャーが大きかつた。SN



仕事するだけなら博士号はいらない。勉強していくうちに広い世界が見えてきて、もっともっとと思つた結果という。

Sで交流している人が研究のアドバイスをくれたり、ぐちを聞いてくれたり、助けてくれた。苦しいときに「お茶飲みに行こう」と連れ出してくれた仲間もいて、ありがたかつた。

博士号を取得して変わったのは、周りの研究者たちが坂本さんの話を真剣に聞いてくれるようになったこと。その分、発言内容には責任を感じているという。また、いろんな人との縁が広がつた。現在の仕事の上司もそのひとりだ。

■ 動物のゲノム解析が人間を救うかもしれない

坂本さんが現在務めるのは、国立遺伝学研究所(情報研究系 大量遺伝情報研究室)。特任研究員として、コロナでなかなか研究所に行けないが、自宅から研究所のスパコンにつないで、おもに動物や昆虫のゲノム解析を行なっている。世界にはさまざまな生物を研究している人がいる。動物の遺伝子治療を探ることで、同じ仕組みで起きる人間の病気予防や治療に活かせるかもしれない。生物ごとにどんな働きをする遺伝子があるかを解明していくことで、科学と医療の発展に寄与できる。坂本さんにも、誰もが簡単に自分の病気予測ができるWEBサービスをつくるという夢がある。

「50歳を過ぎて大学院にまで行くのは、ものすごく好きなことに出会っている証拠。好きだから続けられる、好きだからやりきれないはず。最後までその気持ちを持ち続けてください。そして、必ず友人や仲間ができますので大切にしてください。きっと助けになってくれますよ」

舞台「アニーさん」 かんげき の聲が続々届きました！

2月号でお知らせした舞台「アニーさん」は、予定通り3月11日～14日に名古屋市の東文化劇場にて上演されました。13、14日にはWEBで同時配信され、観劇した財団関係者から「感動した」「泣いた」「予想外の面白さ」などの感想が届いています。開演前のビデオクリップでは、演出の伊藤敬様から当財団のことをご紹介いただきました。

舞台では、人種も国籍も年齢も関係なく、愛し合い、敬い合い、成長し合う、大森兵蔵と安仁子の生き方、そして、社会や子どもたちに対して自分は何をすべきか考え行動する、当財団につながる思いを改めて認識させられました。



●有隣園開園前日

日本初の社会福祉施設・有隣園を準備中の二人のもとに、伝え聞いて感激した松前重広が手伝いたいと訪ねてくる（この人がいたからこそ今日の舞台があるわけだが、長くなるので別の機会に）。二人の熱意に引き寄せられるように支援や人が集まってくる中、意外な人物も!? 大日本体育協会初代会長の嘉納治五郎ではないか……

●二人が出会ったアニー邸にて

時間はさかのぼって、アメリカ留学中、学費を稼ぐためアニー邸でアルバイトをしていた兵蔵。学んで日本の社会に活かしたいと話す兵蔵に惹かれていくアニー。兵蔵も自分の話をまっすぐに受け止めてくれるアニーに心を寄せていくが、そんなある日!! 決定的な出来事が……

●オリンピック初参加の宿舎にて

日本が初参加した1912年のヘルシンキオリンピック。監督として臨んだ兵蔵の体調は結核によって徐々に悪化。しかし大森夫妻は、慣れない食事や外国選手との体格差に困惑する金栗、三島両選手を励ます。2選手の成績は!? 兵蔵の体調は!?

●兵蔵の肖像画の下で

兵蔵がやり残した思いを胸に日本へ戻ってきたアニー。兵蔵の肖像画の下、有隣園のスタッフたちと、これからについて語り合う。と、そこにはアメリカで情報収集して戻ってきた松田竹千代が。さらにはその妻となる兵蔵の姪・藤原澄江の姿も。

●ひな祭りに皆で歌い、踊る安仁子

日本の年中行事を大切にしていたアニー。今日は桃の節句のひなまつり、兵蔵ジュニアや有隣園の子どもたちと歌って踊る。部屋の間には、関東大震災孤児で朝鮮人のハルオの姿が。子供たちは……

●クライマックス・天国のシーン

ここは天国。登場人物たちが大森夫妻と過ごした日々の思い出を語る中、意外なところから戻ってきた夫妻。人はたとえこの世を離れても、天国人となって私たちに寄り添ってくれているのだとか。皆の歌声に包まれた感動のラスト!!